

2025 年度全国教育・保育研究大会 宣言

「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」をめざして
～子どもと保護者と保育者の^{いま}現在と^{あす}未来を支える～

令和 7 年 11 月 20 日

全国保育協議会(第 68 回大会)

全国保育士会(第 58 回大会)

少子化・人口減少がすすむなか、子ども・子育て家庭を取り巻く状況も変化しています。核家族化、地域社会とのつながりの希薄化など、「孤立した育児」をしている子育て家庭が増えており、子ども虐待や貧困等の問題が深刻化することもあります。

国では、子ども一人ひとりの育ちと子育てが支援される社会を実現するために、「保育政策の新たな方向性」を定め、これまでの「保育の量の拡大」から「質の高い保育の確保・充実」に方向転換するとともに、人口減少下での持続可能な保育提供体制を確保することを示しました。

加えて、令和8年度から全国で実施される「こども誰でも通園制度」では、保育所・認定こども園等が地域のすべての子育て家庭に対して専門性を発揮した支援を行うことが期待されています。また、改正児童福祉法による「虐待通報の義務化」がなされ、職員一人ひとりの子どもに対する人権意識が問われています。

すべての子どもの命と人権を守り、子育て家庭を支えるためにも、私たち保育関係者は専門職であることを認識し、人材確保・定着に加えて、資質の向上・維持に努める必要があります。

これからも、保育所・認定こども園等が、欠かせない社会資源として地域の人々からのさらなる信頼と支持を得るために、施設運営・保育実践の両面から今後の保育について考えるとともに、保育士・保育教諭等の専門性をさらに高めるべく、初の一歩化大会となる2025年度全国教育・保育研究大会 東京大会を開催し、次のとおり宣言します。

- 一、 私たちは、常に子どもの視点に立って、自らの保育を振り返り、子どもの安全・安心の確保と権利擁護に向けて取り組みます。
- 一、 私たちは、質の高い教育・保育の提供をとおして、子どもの命を育み、学ぶ意欲を育てるとともに、保護者や地域の子育てを支えます。
- 一、 私たちは、保育の理念を未来につないでいくためにも働きがいと魅力のある職場となるよう努めるとともに、人材確保・定着に取り組みます。あわせて、保育の専門性と魅力を社会に対して発信します。
- 一、 私たちは、人口減少によるさまざまな課題を把握し、それぞれの地域において保育機能を確保するために必要な提言・要望等を行うとともに、地域社会とのつながりをより強化していきます。
- 一、 私たちは、大規模自然災害等の発生の状況下においても、子どもや子育て家庭を守る会員に寄り添い、継続的に支援を実施していきます。
- 一、 私たちは、他の専門職・機関とも連携しながら地域の子ども・子育て家庭のニーズに応えるために、研修や実践研究等の自己研鑽を通して、専門性の向上に努めます。

令和7年11月20日